

下 卷 目 次

第四部 定数係数線型微分方程式の一般論概説

I 齊 次 方 程 式

	p.				
§ 1	前置き	251	§ 9	線型微分表示式	261
§ 2	特性方程式	251	§ 10	線型微分表示式間の演算	262
§ 3	指数函数について	252	§ 11	線型微分表示式の特性多項式	262
§ 4	対数	253	§ 12	純粹型方程式	263
§ 5	特性方程式の重複根	254	§ 13	混合型方程式	263
§ 6	一般解	255	§ 14	与えられた初期条件, 境界条件等に解を適合させること	264
§ 7	解の一意性定理	257			
§ 8	対数型方程式	260			

II 非 齊 次 方 程 式

§ 15	非齊次方程式の一般解	267	§ 19	右辺が二つの函数の一次結合である場合	271
§ 16	右辺が多項式の場合	268	§ 20	右辺が三角函数の場合	271
§ 17	右辺が指数函数の場合	269	§ 21	解を付加条件に適合させること	273
§ 18	右辺が多項式と指数函数の積である場合	270			

III 偏微分方程式への応用

§ 22	偏微分方程式を演算子方程式に帰着させること	275	§ 27	限定的な方程式をとくこと	287
§ 23	付加条件についての注意	281	§ 28	偏微分方程式と演算子方程式の同値性の問題	289
§ 24	正しくない解	281	§ 29	偏微分方程式の解の諸例	290
§ 25	見かけ上の矛盾の説明	283	§ 30	偏微分方程式を演算子法で解くときの一般的注意	293
§ 26	Cauchy の条件と一般条件との同値性の問題	285	§ 31	混合問題	296

第五部 積分演算子法

I 演算子値函数の積分とその応用

§ 1	クラス (\mathcal{K}) の演算子値函数	304	§ 2	積分の定義	305
-----	-----------------------------	-----	-----	-------	-----

§ 3 積分の性質	306	分形	312
§ 4 二変数の演算子値函数	308	§ 7 振動する弦の方程式への応用	314
§ 5 函数の切断	310	§ 8 無限級数と定積分の応用	318
§ 6 対数型微分方程式のある特解の積			

II 積分変換

§ 9 Laplace 変換	321	§ 11 直接的方法と Laplace 変換法との比較	323
§ 10 演算子法の基礎としての Laplace 変換	321	§ 12 他の関連した方法	324

第六部 付 録

I 演算子の抽象代数学的定義

(第一部 I 章への補足)

§ 1 可換環	325	§ 3 演算子	327
§ 2 商体	326		

II 局所的に可積分な函数

(第一部 VII 章への補足)

§ 1 可積分函数の合成積	329	§ 4 クラス \mathcal{K} の函数	330
§ 2 上に述べた合成積の性質	329	§ 5 絶対連続函数	332
§ 3 演算子としての局所的に可積分な函数	330	§ 6 局所的に可積分な函数の作る環	333

III 超 函 数

(第一部 VII 章への補足)

§ 1 序論	334	§ 5 上述の理論と他の超函数論との同値性	338
§ 2 超函数的演算子	334	§ 6 超函数列	339
§ 3 超函数	335	§ 7 演算子と超函数	340
§ 4 超函数の微分	337		

IV 収束性が定義されている抽象空間

(第二部 I 章への補足)

§ 1 一様収束と広義一様収束	342	§ 4 収束の反復拡張	345
§ 2 抽象空間での収束性の拡張	343	§ 5 パナッハ (Banach) 空間としての連続有界函数の集合	346
§ 3 演算子法への応用	344		

§ 6 Banach 空間の半順序集合としての演算子の集合 347	§ 8 別の注意 349
§ 7 演算子全体の集合は Banach 空間ではない 347	§ 9 正則な演算 350
	§ 10 演算子値函数の極限, 導函数および積分 351

V 演算子のべき級数

(第二部 I 章への補足)

§ 1 可積分函数のべき級数 355	§ 3 ある特殊なべき級数 358
§ 2 さらに一般的な場合 356	

VI ラプラス変換

(第五部 II 章への補足)

§ 1 ラプラス変換の基本的性質 363	§ 4 合成積の Laplace 変換 368
§ 2 複素反転公式 364	§ 5 有限 Laplace 変換 369
§ 3 ポスト (Post) の反転公式 366	

VII ギリクレ級数の一クラス

(第一部 II 章への補足)

§ 1 序論 370	§ 5 一般化された Euler のガンマ函数 375
§ 2 ハーシュマン・ウィッダー (Hirschman-Widder) 函数 371	§ 6 一般化された Phragmén の不連続因子 377
§ 3 平行移動した Hirschman-Widder 函数の列 371	§ 7 有界モーメントに関する定理 379
§ 4 与えられた指数列によって生成される整函数 372	§ 8 合成積に関する Titchmarsh の定理 381

VIII 指数函数 $\exp(-\lambda s)$

(第四部 I 章への補足)

§ 1 序論 383	§ 9 $\alpha > 1$ かつ λ が実数の場合 393
§ 2 $\alpha < 0$ の場合 383	§ 10 演算子の実部と虚部 395
§ 3 $\alpha = 0$ の場合 384	§ 11 $\alpha > 1$ かつ λ が複素数 (ただし純虚数ではない) の場合 396
§ 4 $0 < \alpha < 1$ の場合 384	§ 12 $\alpha \geq 1$ かつ λ が純虚数の場合 397
§ 5 Taylor 級数展開 388	§ 13 $\alpha = 1$ の場合 399
§ 6 函数 $U_\alpha(t)$ 390	§ 14 存在範囲の表 399
§ 7 $U_\alpha(t)$ の実数式 391	
§ 8 実軸上の $U_\alpha(t)$ の性質 392	

IX 演算子係数線型微分方程式の一般論

(第四部 I, II 章への補足)

§ 1 記号	400	§ 8 対数型方程式	407
§ 2 解の空間	400	§ 9 純粋型方程式	408
§ 3 一次独立な解	401	§ 10 混合型方程式	409
§ 4 ある解の集合	402	§ 11 非斉次対数型方程式	409
§ 5 二つの方程式の共通解	402	§ 12 非斉次純粋型方程式	410
§ 6 既約多項式のべき	403	§ 13 非斉次混合型方程式	412
§ 7 演算子多項式の因数分解	404		

X 演算子多項式のあるクラス

(第四部 I 章への補足)

§ 1 序論	413	§ 4 一般的方法	417
§ 2 有理的因数分解	413	§ 5 一般的方法 (続き)	419
§ 3 無理数的因数分解	414	§ 6 諸注意	421

XI 微分方程式のあるクラス

(第四部 I 章への補足)

§ 1 一次独立な解の個数	423	§ 3 解の決定	427
§ 2 指数函数に関する一定理	425		

XII 偏微分方程式の斉次問題

(第四部 III 章への補足)

§ 1 問題の導入	429	§ 3 第二補題	432
§ 2 第一補題	430	§ 4 例題	434

XIII 合成積に関する Titchmarsh の定理の簡単な証明

(第一部 II 章への補足)

§ 1 前置き	438	§ 3 定理の証明	439
§ 2 補題	438	§ 4 注意	440

第七部 公式と数表

I 特殊函数

1. Euler のガンマ函数	441	3. Bessel 函数	441
2. 誤差函数	441		

II 演算子法の諸公式 441

III 電気工学への応用

- | | |
|-------------------------|-----------------------------------|
| 1. 回路の方程式 446 | 3. 簡単な四端子回路網とその行列の表 447 |
| 2. 定常電流 446 | |

IV 函 数 表

- | | |
|--|---|
| 1. Euler のガンマ函数 $\Gamma(\lambda)$ 448 | 4. Bessel 函数 $J_1(\lambda)$ 449 |
| 2. 誤差函数 $\operatorname{erf} \lambda$ 448 | 5. 函数 $J_0(i\lambda)$ と $-iJ_1(i\lambda)$ 450 |
| 3. Bessel 函数 $J_0(\lambda)$ 449 | |

問題の解答 451

文献表 470

追加文献表 473

索引 475